

園だより

令和7年6月1日

社会福祉法人新田保育園

園長 大西 陽子



生活を共にする

毎日を共に過ごしている保育園の子どもたち。その多くは平日、寝ている時間を除くと、家族と家で過ごすより長く、友だちと園で過ごしています。その中で自分の気づきや発見を誰かに伝えたい、と思った時、身近にいる友だちに発信します。それに応えるように相手が一緒に笑ったり驚いたりすると、共感が生まれます。共感とは安心感となり、信頼関係に繋がっていきます。そして、楽しいことや嬉しいことは友だちと分かち合いたい、自分の思いを分かち合いたいと思うからこそ、けんかも起こります。悲しいことや悔しいこともたくさん経験するけれど、自分の思いや考えが伝わったら、また一緒に過ごしたくなります。そうしているうちに、友だちのことがよくわかり、自分との違いも明確になってきます。自分や友だちの趣味嗜好、得手不得手がわかると、事柄によって相手や発信の仕方が変わってきます。虫についてわからない時は詳しく知っているあの子に聞こう、この絵本はこの子と見ると楽しいから誘ってみよう、先生の話を聞きそびれた時は優しく教えてくれるあの子に聞こう、これは自分が得意なことだから友だちが困っていたら助けたい、この言葉をかけたら怒りそうだから別の言い方にしよう、などという具合です。関わりが増えれば増えるほど、自分の考えていた通りにならないことが増えトラブルも多くなりますが、裏を返せばそれだけコミュニケーション能力が磨かれていくというわけです。

先日、2泊3日の年長児合宿がありましたが、当日の山登りに向けて順番を決めた時も、どういう順番ならみんな揃って登頂できるかと、順番ごとの役割と性格や体力など、子どもたち同士で意見を出し合って決めました。船づくりをした時も、テープがうまく切れなかったりペンの蓋が開かない時には助け合ったり、アイデアを出し合ったり、どんなふうに流れるか想像し合ったりして作り上げました。

さて、私自身永く新田保育園に勤め、卒園児がアルバイトに来たり、成人を迎えた卒園児と交流したりする機会に多く恵まれるようになりました。保育園時代の思い出を聞くと、合宿や運動会、冬まつりなど行事の話題はもちろん出てきますが、大半は日々の思い出話に花が咲きます。「〇〇は走るのが速かった」「〇〇はいつも最後まで寝ていた」「〇〇は緑色が好きだった」「〇〇はふざけてばかりだった」など。卒園してから離れて暮らしていても、会った時にはまるで昨日の出来事のように「〇〇だったよね」と話ができるそんな仲間関係を、自分たちは育んでいるのだと誇らしくなります。毎日一緒に過ごしているからこそ本音でぶつかり合え、相手のことを知り自分のことを知ってもらえます。そこへ行事のようなスパイスが加わることで、目指すもの、作り上げるものが明確になり、一つの大きな力となって発揮されるのです。保育園生活の一日一日が、これからの社会を生きる子どもたちの礎となることを肝に銘じ、保育にあたっています。

(文責：須田千鶴子)

【お知らせ】 山下萌香保育士は、6月より0歳児担任としてみかん組の保育に入ります

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
6月			健康体育(3・4・5歳児)	避難訓練	歯科検診	りす組保育参観・懇談会						誕生会・写真の日	ひよこ組懇談会					健康診断(0・4歳児)	水遊び開始(0・1・4・5歳児)	ことり組懇談会					ぞう組荒川自然探検					